

子どものツルのおちるのをみつけて、そのすぐまえをとんでいたツルが、するどくなきました。

すると、たちまち、たいへんなことがおこりました。

まえをとんでいた、きゅうじゅうきゅうわ九十九羽のツルが、いつとくに、さっと、した下へした下へとおちはじめたのです。

子どものツルよりも、もっとはやく、つき月の光をひかりつらぬいてとぶ、ぎんいろのや矢のようにはやく、おちました。

